

天草キリシタン資料館 整備活用計画

天草市

令和3年12月

目次

第1章 計画策定にあたって	- 1 -
1 計画の背景	- 1 -
2 計画の目的	- 2 -
3 計画の位置付けと期間	- 3 -
4 本計画の対象となる施設	- 4 -
第2章 現状と課題・基本方針	- 5 -
1 キリシタン資料館の現状	- 5 -
2 キリシタン資料館の課題	- 18 -
3 キリシタン資料館の基本方針	- 23 -
4 キリシタン資料館の将来像	- 27 -
第3章 具体的な施策	- 28 -
1 組織・運営に関すること	- 28 -
2 施設・管理に関すること	- 31 -
3 資料・展示に関すること	- 32 -
4 情報発信に関すること	- 37 -
5 保全意識の醸成	- 40 -
第4章 計画の推進に関する事項	- 41 -
1 計画の推進体制	- 41 -
2 計画の変更について	- 41 -
3 成果指標	- 41 -
4 実施スケジュール	- 43 -

第1章 計画策定にあたって

1 計画の背景

天草市には、キリシタン史・文化の展示施設として、合併前の旧市町で整備された3つのキリシタン資料館と、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つである崎津集落内に「崎津資料館みなと屋」がある。(以下、総称して「キリシタン資料館」とする。)キリシタン資料館は、それぞれが天草のキリシタン史を紹介しており、島原・天草一揆を中心とした「天草キリシタン館」、キリスト教伝来期を中心とした「天草コレジヨ館」、潜伏キリシタンを中心とした「天草ロザリオ館」となっている。崎津資料館みなと屋は、前述の3つの資料館と趣が異なり、世界文化遺産の全体像と崎津集落の紹介施設(長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターのサテライト施設)として、世界遺産・キリシタン資料館係が所管している。

キリシタン資料館は、①資料の収集、②調査・研究、③保存・記録、④公開・展示、⑤周知・啓発、⑥観光・地域振興、⑦文化・教育振興が目的として設置されているが、平成30年の世界文化遺産登録により、更にその役割は重要となった。しかしながら、これまで具体的な運営体制が検討されることもなく、入館者が減少し、その対応も進まなかったことから、平成30年度には、天草キリシタン館運営委員会に対し、天草キリシタン館の課題と抽出、今後の取り組みについての諮問を行ったところ、運営委員会より①常駐の市職員が不在、②常設展の入替えがない、③企画展の開催がない、④調査・研究に集中できない、⑤情報発信が弱い等、その要因について答申がなされた。また、天草市南蛮文化アドバイザーであるノバ・リスボン大学教授、アレシャンドラ・クルヴェロ氏からは、キリシタン資料館をはじめ、関連施設の課題に対しての取り組みべき事項の提言があった。

このキリシタン資料館の活性化を目指し、『天草キリシタン資料館整備活用計画』をとりまとめた。令和元年度に文化課内にキリシタン資料館管理係を設置し、令和3年度に世界遺産・キリシタン資料館係に改編し、更に世界遺産担当とキリシタン資料館が連携して事業を推進することとした。

2 計画の目的

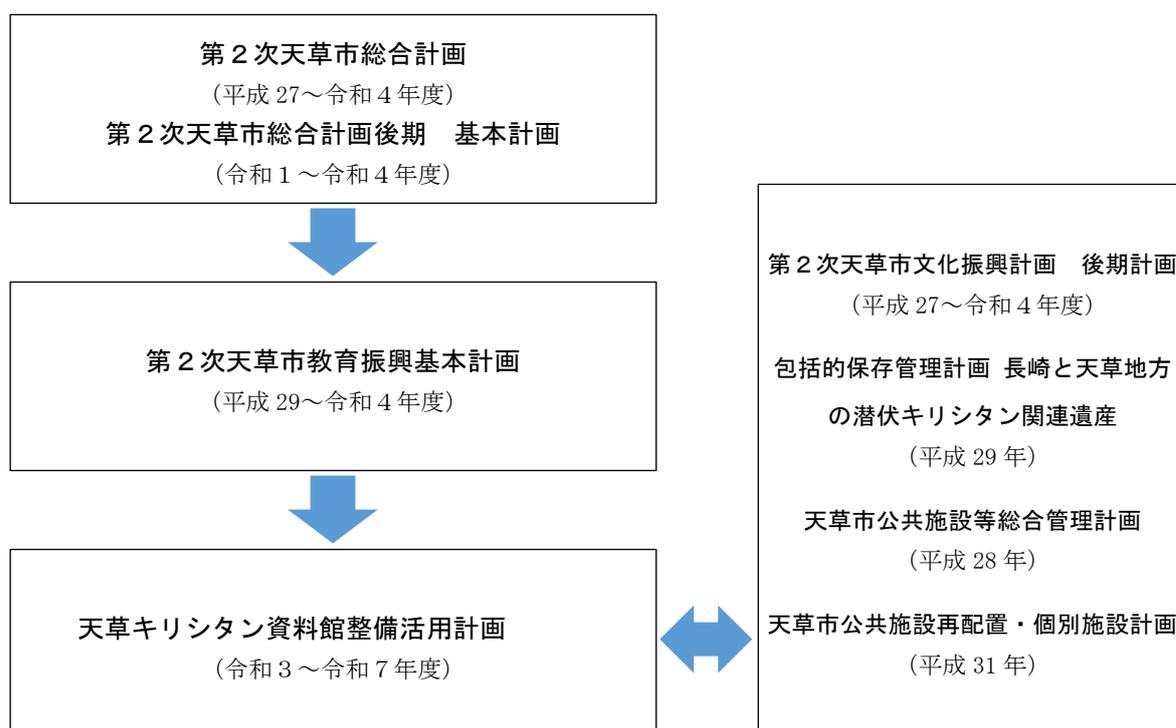
世界が認めた“天草の宝”、天草のキリシタンの歴史と文化の普遍的価値を継承するためには、キリシタン資料館を効率的に管理・運営を行い、それぞれの役割分担と特徴をさらに磨き上げ、魅力化を図るとともに、各資料館が連携して情報発信を行うことが必要である。

本計画は、キリシタン資料館の展示施設としての活動を推進するとともに、世界文化遺産の顕著な普遍的価値の継承を担うための大きな役割があるとの認識のもと、さらに魅力ある資料館として取り組むべき方向性と具体的施策を示すものである。

3 計画の位置付けと期間

『第2次天草市総合計画』では、まちづくりの基本理念として「人が輝き活力あふれる日本の宝島“天草”」を、まちの将来像として「文化を育み人が輝くまち」を、基本方針において「歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり」を掲げている。さらには、「第2次天草市教育振興基本計画」において、「基本方針4 文化の振興」を掲げ、文化施設の整備・活用に努めるものとしている。

本計画は、前述の「総合計画」を最上位計画、「第2次天草市教育振興基本計画」を上位計画として、これら計画の理念等に則り、各資料館の今後の在り方および管理・運営体制や展示資料の見直し、収蔵資料の調査・研究・整理、施設の改修、関連施設との連携や情報発信についてまとめたものであり、第2次天草市総合計画後期計画および第2次天草市教育振興基本計画をもとに、計画期間は令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）の5ヵ年とする。



4 本計画の対象となる施設

本計画において、「天草キリシタン館」、「天草コレジヨ館」、「天草ロザリオ館」及び「崎津資料館みなと屋」を対象とする。

第2章 現状と課題・基本方針

1 キリシタン資料館の現状

(1) キリシタン資料館の基本情報

①天草市立天草キリシタン館

											
<p>外観</p>	<p>館内展示室</p>										
<p>設置</p>	<p>昭和 41 年 8 月設置（築 55 年経過し、解体） 平成 22 年 7 月リニューアルオープン （鉄筋コンクリート造 2 階建、総面積 997 m²）</p>										
<p>館情報</p>	<p>①展示テーマ：島原・天草一揆を中心としたキリシタンの歴史 ②収蔵資料数：680 点（令和 3 年 4 月 1 日時点） ③観覧料：大人 300 円、高校生 200 円、小中学生 150 円 （市内小中高生は無料） ④休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）、12/30～1/1 ⑤住所：天草市船之尾町 19-52 ⑥電話：0969-22-3845</p>										
<p>概要</p>	<p>昭和 41 年に旧本渡市で設置され、建築から 40 年が経過し施設が老朽化したことから、まちづくり交付金事業で平成 17 年度から 5 カ年計画で整備し、観光交流施設としてリニューアルオープンした。祇園橋、城山公園、天草キリシタン館、商店街、旧ニチイビル（天草宝島国際交流会館ポルト）、旧教育会館（文化交流館）の観光ルートを確立し、回遊性のある市街地を形成し、経済の活性化を図ることを目的として設置された。</p>										
<p>入館者</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>51,287 人</td> <td>40,308 人</td> <td>39,288 人</td> <td>39,008 人</td> <td>33,224 人</td> </tr> </table>	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	51,287 人	40,308 人	39,288 人	39,008 人	33,224 人
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度							
51,287 人	40,308 人	39,288 人	39,008 人	33,224 人							
<p>職員配置</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>正 2、非 5</td> <td>正 1、再 1、非 5</td> <td>正 2、再 1、非 7</td> <td>正 1、再 2、非 8</td> <td>非 7</td> </tr> </table>	正 2、非 5	正 1、再 1、非 5	正 2、再 1、非 7	正 1、再 2、非 8	非 7					
正 2、非 5	正 1、再 1、非 5	正 2、再 1、非 7	正 1、再 2、非 8	非 7							
<p>施設改修費</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>1,019,434 円</td> <td>3,922,560 円</td> <td>3,588,570</td> <td>5,115,480</td> <td>4,062,100 円</td> </tr> </table>	1,019,434 円	3,922,560 円	3,588,570	5,115,480	4,062,100 円					
1,019,434 円	3,922,560 円	3,588,570	5,115,480	4,062,100 円							

※職員配置：正（正職員）、再（再任用職員）、非（非常勤職員）以下同様

②天草市立天草コレジヨ館

					
外観		館内展示室			
設 置	昭和 62 年 10 月、文化会館と図書館の複合施設として開館 平成 2 年 5 月、天草コレジヨ館オープン 平成 25 年 11 月「世界平和大使人形の館」「ESOP0 の宝箱」オープン 鉄筋コンクリート造 2 階建、総面積 1,433 m ²				
館情報	①展示テーマ：天草にキリスト教が伝来し開花した南蛮文化 ②収蔵資料数：1983 点（令和 3 年 4 月 1 日時点） ③観覧料：大人 200 円、高校生 150 円、小中学生 100 円 （市内小中高生は無料） ④休館日：毎週木曜日（祝日の場合は翌平日）、12/30～1/1 ⑤住所：天草市河浦町白木河内 175-13 ⑥電話：0969-76-0388				
概要	旧河浦町で、昭和 62 年に文化会館と図書館との複合施設として設置され、平成 2 年に天草コレジヨ館として開館し、16 世紀末の南蛮文化や天正遣欧少年使節に関する資料を展示している。また、平成 25 年に世界平和大使人形の館および ESOP0 の宝箱がオープンし、このときに天草コレジヨ館の施設利用および館活動の抜本的な再検討を行って、今後の運営を円滑に進めることとした。				
入館者	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	10,738 人	13,580 人	9,798 人	12,922 人	12,024 人
職員配置	再 1、非 4	再 1、非 5	再 1、非 5	非 6	非 6
施設修費	5,138,165 円	180,361 円	4,840,067 円	1,177,004 円	224,140 円

③天草市立天草ロザリオ館



外観



館内展示室

設置	昭和 63 年 4 月設置 平成 6 年 4 月天草玩具資料館オープン (鉄筋コンクリート造平屋建、総面積 899 m ²)				
館情報	<p>①展示テーマ：潜伏キリシタンの暮らしや信仰・文化</p> <p>②収蔵資料数：992 点 (令和 3 年 4 月 1 日時点)</p> <p>③観覧料：大人 300 円、高校生 200 円、小中学生 150 円 (市内小中高生は無料)</p> <p>④休館日：毎週水曜日 (祝日の場合は翌平日)、12/30～1/1</p> <p>⑤住所：天草市天草町大江 1749</p> <p>⑥電話：0969-42-5259</p>				
概要	<p>旧天草町で昭和 63 年にオープン。天草に残るキリシタン信仰の証である遺物は貴重な遺産であり、それらを保存し正しく伝承することが現代を生きる者に課せられた責務であり、今後のキリシタン研究の場として建設された。潜伏キリシタンの暮らしや信仰、文化を伝える遺物や資料を多く展示し、映像ホールでは、迫力ある 3D 立体映像が体感できる。</p> <p>また、天草玩具資料館は、平成 6 年にオープンし、平成 22 年 4 月からロザリオ館と玩具資料館の観覧料が統一券となった。</p>				
入館者	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	19,983 人	24,004 人	15,814 人	23,848 人	21,478 人
職員配置	再 1、非 4	再 1、非 5	再 1、非 5	非 6	非 6
施設改修費	1,233,036 円	3,384,272 円	765,288 円	3,476,947 円	5,915,574 円

④崎津資料館みなと屋



外観



館内展示室

設置	<p>平成 28 年 8 月 1 日開館。 木造 2 階建て、総面積 191 m² 付属施設に「つどい処 まつだ」、「旧網元岩下家 よらんかな」がある。 建物は昭和初期に建築された旅館建物の間取りを維持し、再築したもの。「天草市崎津・今富の文化的景観」の重要な構成要素。</p>			
館情報	<p>① 展示テーマ：世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のサテライト施設として、構成資産「天草の崎津集落」の価値や特徴を紹介。 ② 収蔵資料数：91 点（令和 3 年 4 月 1 日現在） ③ 入館料：無料 ④ 休館日：年末年始（12 月 30 日・31 日・翌年 1 月 1 日） ⑤ 住所：天草市河浦町崎津 463 ⑥ 電話：0969-75-9911</p>			
概要	<p>昭和初期の旅館を改修し、崎津集落の歴史や漁村特有のキリシタン信仰等を紹介する施設として、平成 28 年 8 月にオープン。キリスト教布教期から潜伏期の資料を中心に展示している。また、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と構成資産「天草の崎津集落」に関するガイダンス映像も放映している。</p>			
入館者	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	23,405 人	34,888 人	65,161 人	53,693 人
職員配置	再 1、非 3			
施設改修費	6,661,513 円	0 円	0 円	20,736 円

(2) 入館者動向分析

①各施設の入館者状況

近年のキリシタン資料館等の各施設の入館者状況については次表のとおりである。

表 1 キリシタン館入館者数推移 単位：人

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
天草キリシタン館	—	67,323	64,321	67,169	56,986	51,287	40,308	39,288	39,008	33,224	15,361
天草コレジヨ館	8,667	9,243	9,900	9,543	9,770	10,738	13,580	9,798	12,922	12,024	3,959
天草ロザリオ館	13,961	19,338	17,765	16,808	16,756	19,983	24,004	15,814	23,848	21,478	7,154
崎津資料館 みなと屋 (参考)天草四郎 ミュージアム	—	—	—	—	—	—	23,405	34,888	65,161	53,693	18,535
(参考)天草四郎 ミュージアム	46,313	56,132	46,631	43,678	38,216	34,606	23,612	25,710	32,789	32,733	14,752

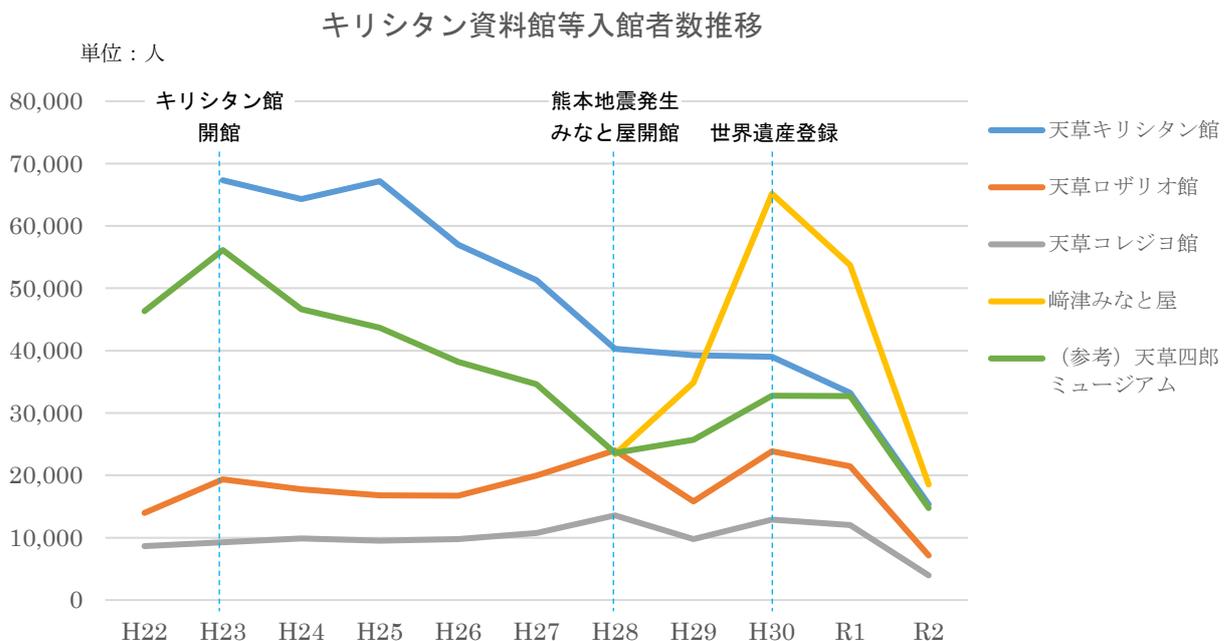


図 1 キリシタン資料館等入館者数推移

天草コレジヨ館及び天草ロザリオ館は、長く入館者数が横ばいの状況であったが、平成 28 年度の熊本地震発生により、天草地域が阿蘇地域の代替旅行先となったことによって増加したものの、平成 29 年度は熊本地震前の平成 27 年度を下回った。平成 30 年度は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として崎津集落が世界文化遺産に登録された追い風もあり、入館者は前年度を上回っている。しかし、令和元年度は早くも世界文化遺産登録効果が薄れ、前年よりも減少した。

一方、天草キリシタン館は、平成 22 年に開館し、平成 25 年をピークに入館者が減少し続けている。他の資料館と同様に、震災後に一時、観覧料を無料とした他、世界文化遺産登録があったにも関わらず、その恩恵を受けることなく、減少の一途を辿っている状況である。しかし、他施設と比較しても平成 23 年度から平成 25 年度の入館者数自体は多い。

崎津資料館みなと屋は平成 30 年の世界遺産登録を機に前年の 2 倍近い入館者が訪れたが、翌年には減少に転じた。

令和元年度までの入館者数の増減の傾向は、上記のとおりそれぞれ異なるが、令和 2 年度はいずれの施設においても、新型コロナウイルスの感染拡大によって大幅に減少した。

②入館者の市内外比率

入館者全体に対して、令和元年度の市民の利用は次の図表のとおりとなっている。

表 2 キリシタン資料館の来館者数（市内・市外別）

	市内	市外	合計
天草キリシタン館	480	32,744	33,224
天草コレジヨ館	2,332	9,693	12,025
天草ロザリオ館	2,277	19,186	21,463

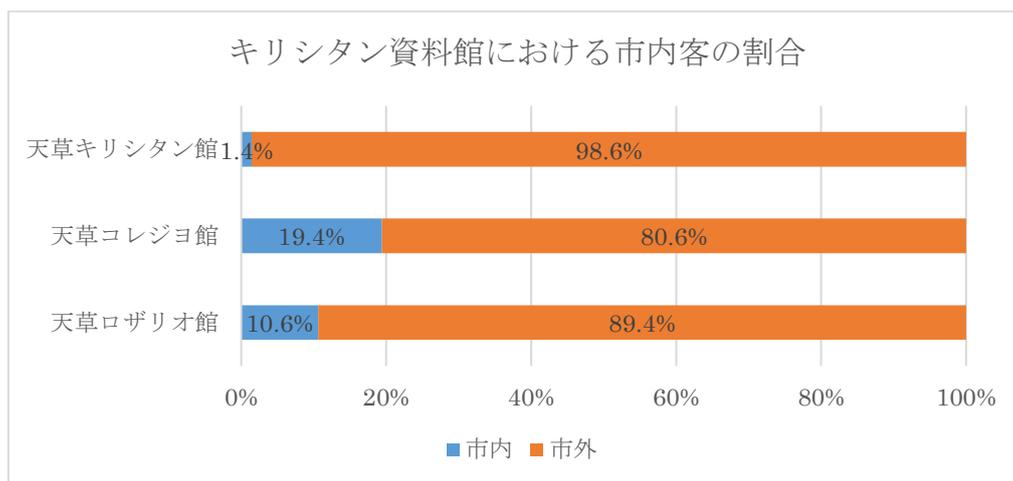


図 2 キリシタン資料館における市内客の割合

※崎津資料館みなと屋に関しては来館者の市内・外の集計をしていないため除外。

令和元年度において、全入館者のうち市民が占める割合は、天草キリシタン館 1.4%、天草コレジヨ館 19.4%、天草ロザリオ館 10.6%となっており、実数としても他の 2 館が 2,000 人を超える市民の利用がある一方で、天草キリ

シタン館は 480 人、全体の 1.4%と市民利用の割合が低い状況である。

また、市内からキリシタン資料館へ来館した方の属性を見ると、次のとおりとなる。天草コレジヨ館及び天草ロザリオ館は一般客が 8 割から 9 割を占め、天草キリシタン館では、小学生・中学生が 8 割弱を占めている。

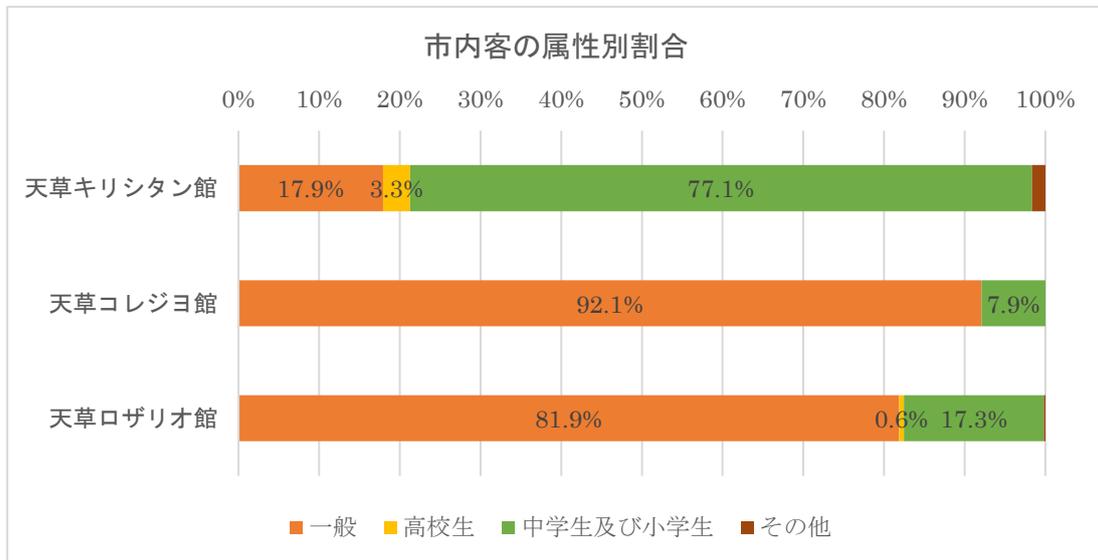


図 3 キリシタン資料館に来館した市内客の属性別割合

③県内の立ち寄り場所意向

熊本県内における観光地等の立ち寄り意向は次表のとおりである。

(単位：回)

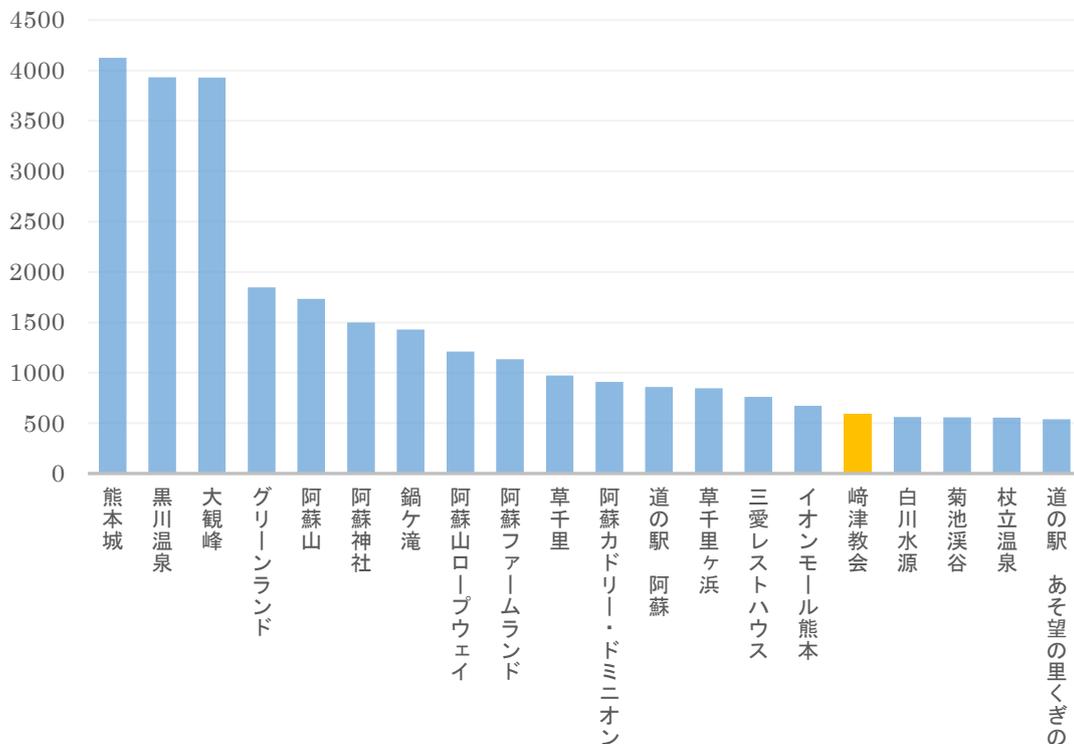


図 4 目的地分析 (検索回数)

出典：RESAS 株式会社ナビタイムジャパン 「経路検索条件データ」より。令和元年度の休日において、車利用の場合の検索回数。

上記より、熊本県内における目的地としては熊本市内もしくは阿蘇地域の観光地が多く、天草地域の目的地は「崎津教会」が一定回数検索されているのみであり、「発地」においてキリシタン資料館は見学候補として意識されていないことがわかる。

(3) キリシタン資料館の運営体制等の現状

①運営体制及び条例

条例については、「天草市立天草キリシタン館条例」、「天草市立天草ロザリオ館条例」、「天草市立天草コレジヨ館条例」及び「天草市崎津資料館みなと屋条例」と、4館それぞれ制定されている。

前述の条例には、それぞれ運営委員会の設置が定められており、現状のキリシタン資料館における管理運営体制は次のとおりである。

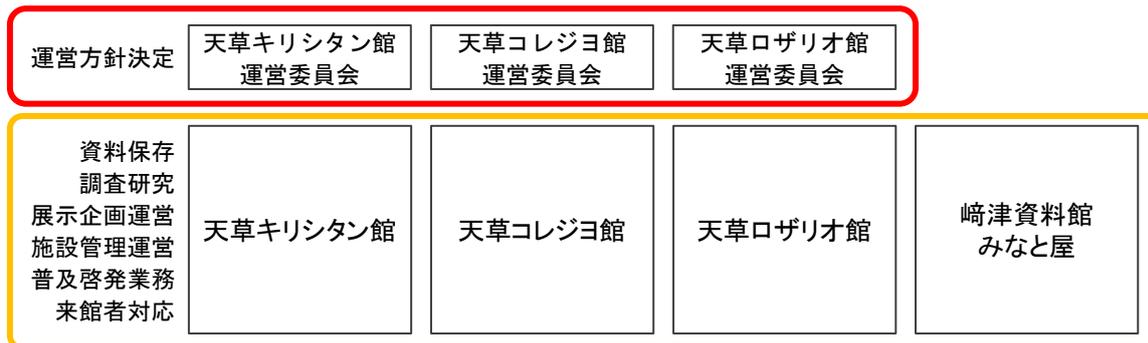


図 5 キリシタン資料館の運営体制図

現在、崎津資料館みなと屋には運営委員会が設置されていないが、他の3館においては個々に運営委員会が存在しており、運営方針の決定を行っている。その決定に基づき、館を運営しているものの、それぞれの運営委員会における横断的な判断や情報共有等は特段行われていない。

②職員配置状況

それぞれの館における職員の配置状況（令和3年4月1日現在）は次の表のとおりである。なお、学芸員の配置について、天草キリシタン館において非常勤学芸員が1名配置されており、また同館の館長は学芸員有資格者である。その他の館には学芸員の配置はない。

表 3 職員配置状況

	正職員	再任用職員	非常勤 会計年度任用職員
天草キリシタン館	0	0	8 (うち、学芸員1)
天草コレジヨ館	0	1	5
天草ロザリオ館	0	0	6
崎津資料館みなと屋	0	0	5

令和元年4月1日に文化課においてキリシタン資料館管理係が発足し、更

に世界遺産関連業務との連携を深めるための組織改編によって、令和3年4月1日より、世界遺産・キリシタン資料館係となった。同係には、上記職員とは別に事務職員2名、学芸員3名（うち正職員2名、会計年度任用職員1名）が配置されており、学芸員（正職員）を中心として各館の展示等を担っている。

（４）キリシタン資料館の展示及び施設等の状況

①天草キリシタン館

【施設等の状況】

本渡市街地を一望する公園内に位置し、平成22年にリニューアルオープンをした比較的新しい施設である。

施設の1階に情報案内コーナー、多目的室、収蔵庫、2階に映像コーナー、常設展示室、展望テラスを備える。1階多目的室は企画展室としても活用している。また、2階にはカフェコーナーがあったが、現在は休止している。

【展示概略】

国指定重要文化財「綸子地著色聖体秘蹟凶指物」を中心に、南蛮文化の伝来と島原・天草一揆、一揆後の復興とキリスト教の信仰、禁教期とその後の天草の歴史について展示している。

展示に関して多言語表示はごく一部に限られており、また、館内に世界遺産に関する紹介や掲示はない。平成23年に展示している150点ほどの資料を掲載した「展示図録」を発刊しているが、その後に図録等は発刊されていない。

【所蔵資料】

島原・天草一揆とキリシタン信仰に関する資料、680点を収蔵する。（うち寄託資料は234点となっている。）

【指定文化財等の所蔵状況】

- ・綸子地著色聖体秘蹟凶指物 国指定重要文化財
- ・メダリオン 市指定文化財
- ・鷹羽門螺鈿鞍 市指定文化財
- ・四郎乱物語 市指定文化財
- ・高札 市指定文化財
- ・ロザリオと壺 市指定文化財
- ・あぶみ（一対） 市指定文化財

②天草コレジヨ館

【施設等の状況】

昭和 62 年 10 月、文化会館と図書館の複合施設として開館し、その後、平成 2 年に天草コレジヨ館として開館した。常設展示室の他、映像ホール、企画・展示ホール、学習室等を備える。企画・展示ホールは企画展の開催や西洋古楽器のコンサート等に活用されている。ライブラリ機能はなく、ミュージアムショップは限定的に事務室に設置している。

【展示概略】

1 階では、天草五人衆に関する展示からキリスト教の伝来、河浦の南蛮文化の歴史と宣教師の養成学校である天草コレジヨに関する展示を行っている他、天草本伊曾保物語を題材とした造形物「ESOP0 の宝箱」を展示している。なお、展示されているグーテンベルク印刷機や西洋古楽器等を活用して、不定期で体験を行っている。

2 階では、郷土出身の政治家である園田直・博之氏と地域発展に貢献した先達の資料及び、世界平和の大切さを伝えるための「世界平和大使人形」を展示している。

展示内容について、特に常設展示の解説等は多言語表示とはなっておらず、また、崎津集落の近くに位置する資料館であるにも関わらず、世界遺産との繋がりが分かるような説明や展示物が不足している。

【所蔵資料】

南蛮文化関連資料や郷土先達資料、世界平和大使人形など 1983 点を収蔵している。(うち寄託資料は 14 点となっている。)

【指定文化財等の所蔵状況】

- ・鬼塚古墳出土品 市指定文化財

③天草ロザリオ館

【施設等の状況】

昭和 63 年、天草ロザリオ館は大江教会の近隣に建設され、平成 6 年には併設する形で玩具資料館が建設された。館内においては、常設展示室の他、映像ホール（3D 立体シアター）を備える。昭和 63 年に建設されているため、施設の老朽化が進んでいる。館内にライブラリ機能やミュージアムショップ等は設置されていない。

【展示概略】

「マリア観音」や「経消しの壺」等、キリスト教の伝来から禁教期を経て、キリシタンの復活に関連する資料を展示している。また、キリシタン禁教時代にかくれキリシタンが人目を避け、密かに祈りを捧げていた隠れ部屋を実物

大のジオラマとして再現している。その他、併設する玩具資料館において、地域の伝統的な玩具や民具の展示を行っており、キリシタン史とはテーマが異なるため、館内の導線や館のコンセプトがわかりづらくなっている。

館内の多言語表示については限定的で、展示解説のほとんどは多言語表示とはなっていない。これまで企画展等は定期的には実施されておらず、図録等も発刊していない。

【所蔵資料】

潜伏キリシタン関連の資料、992点を収蔵し、うち寄託資料は40点である。

【指定文化財等の所蔵状況】

- ・上田家文書 県指定文化財
- ・キリシタン禁制の遺物一括 県指定文化財
- ・天草サラサ 市指定文化財
- ・松浦家古文書 市指定文化財

④ 崎津資料館みなと屋

【施設の状況】

昭和11年に建設された旅館「みなと屋」を改修し、平成28年に崎津集落内、崎津教会の近隣に建設された。館内には常設展示室の他、休憩室、崎津教会を眺めることができる展望室を備える。休憩室は企画展等の開催にも活用される。

【展示概略】

1階では、交易によって最も栄えた昭和初期の崎津についてジオラマを用いて紹介し、またキリスト教の布教から潜伏時代にかけての信心具等により、崎津地区のキリシタン史、特に弾圧と潜伏時代について展示している。

2階では、集落のシンボルとなっている崎津教会を中心に、明治時代のカトリック復活以降の歴史について展示している。

【指定文化財等の所蔵状況】

所蔵なし

⑤ 4館の現状総括

【施設の状況】

崎津資料館みなと屋や天草キリシタン館は比較的新しい施設であるため、設備不良等は少ないものの、天草コレジオ館及び天草ロザリオ館については施設の老朽化が進みつつある状態である。

各館には多言語表示によるサインや解説等は少なく、館内外において多言語による案内が不足している。また、各館の収蔵庫は設備や広さが十分ではなく、保存環境が適切でない点において共通している。更に、ミュージアムショップやライブラリ機能については一部の館のみ設置されている状況である。

【展示の状況】

天草キリシタン館は、リニューアル時点と比較すると、常設展において資料の一部の入れ替えを行っているものの、天草ロザリオ館・天草コレジヨ館2館に関しては開館当時から展示更新を行っておらず、ほぼ変化がない状況である。崎津資料館みなと屋についても開館当初から変わらないが、そもそも開館から間もないこともあり、展示更新の必要性は低い。しかし、4館を総覧すると、それぞれ設定されたテーマが異なるにも関わらず、各館の展示資料には重複があり、また資料館のテーマにそぐわない資料の展示もあることから、資料館のコンセプト等が理解しづらくなっている。更に、近年は定期的に特別展を開催しているものの、かつてはほとんど開催実績がなかったため、図録等の発刊数も少ない状況である。

また、崎津集落が世界文化遺産に登録され、国内外から注目されているにも関わらず、各資料館ではそれを周知するための手段が講じられずおらず、多言語化や音声案内設備等、インバウンド対策が整っていない。

【管理運営等について】

キリシタン資料館4館には、正職員・学芸員が不在となり、資料の調査・研究、収集や台帳整備が進んでいない。また、市民向けの講座やセミナー、児童・生徒向けの出前講座等の開催実績も年間を通して少なく、市民利用が少ない状況である。

2 キリシタン資料館の課題

キリシタン資料館の個別の館及び共通する課題については次のとおりである。なお、これらは各館の運営委員等の指摘をまとめたものであるが、崎津資料館みなと屋に関しては開館して間もないこと、運営委員会が存在しないことから個別具体的な課題の記述は省略した。

(1) 天草キリシタン館の課題

①組織・運営に関する課題

- ・崎津集落から離れていることから、世界遺産登録の効果が薄く、入館者の減少に歯止めがかかっていない。
- ・館全体においてインバウンド対策がなされておらず、外国人受け入れ態勢ができていない。
- ・施設は、中心部から離れた山腹にあり、一方通行などアクセスに問題がある。また、館全体の動線がわかりづらく、来館者がスムーズに移動できない。
- ・修学旅行など市外観光客向けの案内・対応に偏重しており、市民が気軽に足を運ぶような仕掛けもないため、市内来訪者が少ない。

②施設・管理に関する課題

- ・サインがわかりにくい。(一方通行の表示を見落としやすい)
- ・貴重な資料を展示するための収蔵庫機能や備品が整っていないため、資料保存に問題があり、他館からの資料の借用が難しく、企画展等が実施できない。
- ・壁面緑化の管理が不十分であり、屋上や外壁に雑草が茂り景観が悪い。
- ・ミュージアムショップの設置・充実が必要。オリジナルグッズ等がない。

③見学環境・展示・資料に関する課題

- ・照明が適切でなく、説明文が見えづらい、来館者の安全確保ができていないなどの問題がある。
- ・見学動線がわかりづらく、スムーズな見学に繋がっていない。
- ・展示テーマが来館者に伝わっていない。
- ・定期的な展示替えが実施されておらず、資料保存の観点からも不適當である。
- ・資料解説が専門的でわかりづらい。
- ・天草四郎陣中旗は、天草の歴史、九州の歴史、日本におけるキリスト教の歴史において重要なものであり、その時代の最も重要な物的資料の1つと

して理解されるべき。

- ・館が位置する場所と天草四郎陣中旗の関連を明らかにすべき。

(2) 天草コレジヨ館の課題

①組織・運営に関する課題

- ・リーフレットのデザイン・内容が古く、多言語対応となっていないため、誘客に結びつかない。
- ・館内において、常設展示の他に郷土の先達に関する展示や人形の館の展示があり、関連性が不明でテーマの統一性に欠ける。
- ・正職員・学芸員が不在であり、調査研究等進んでいない。
- ・図録等がこれまでに発刊されていない。

②施設・管理に関する課題

- ・施設の老朽化によって雨漏りがあり、来館者の受け入れや資料保存に支障が出る可能性がある。
- ・資料館として建設された建物ではないため、館の外見が資料館にそぐわない。敷地の入口等で工夫が必要。
- ・トイレの数が少なく、また古いため、利便性に欠ける。
- ・施設内にミュージアムショップやライブラリ機能が欠けており、来館者の満足度の向上に繋がらない。

③見学環境・展示・資料に関する課題

- ・映像が古く、世界遺産登録を踏まえた内容となっていない。
- ・展示資料に合わせた設え（照明・音楽等）が必要である。
- ・印刷機や古楽器等の体験コーナーがない。
- ・グーテンベルク活版印刷機を展示している館は全国でも少なく、より展示内容を補強し、魅力的に展示する必要がある。
- ・コレジヨ、ルイス・デ・アルメイダなど展示内容を見直し、よりキリスト教伝来期の展示を充実させる必要がある。特に天草におけるキリスト教伝来の鍵となった宣教師ルイス・デ・アルメイダ神父を強調すべき。
- ・世界遺産の構成資産である崎津集落と天草コレジヨ館の繋がりがわかるような説明や展示物に不足がある。

(3) 天草ロザリオ館の現状と課題

①組織・運営に関する課題

- ・収蔵品のうち、特に古文書等の整理が進んでおらず、研究に繋がっていない

い。

- ・図録等がこれまでに発刊されていない。
- ・再来訪者を増やしたり、周遊に繋がったりするような取り組みに欠ける。

②施設・管理に関する課題

- ・経年劣化により機械、電気設備等の故障がある。
- ・収蔵庫において資料の整理と適切な温湿度管理のための対策が現状では不十分であり、整備が必要である。

③見学環境・展示・資料に関する課題

- ・展示構成が整理されておらず、テーマや導線が分かりにくい。
- ・照明が暗く、適切な見学環境が提供できていない。
- ・キリシタン資料とは関連が薄い玩具資料館が併設されており、館自体のテーマをわかりづらくさせている。
- ・世界遺産との関連性がわかるような展示内容となっていない。
- ・展示ケース内における温・湿度管理、落下防止策などが適切ではないため、資料に影響が及ぶ可能性がある。

(4) 共通の課題（総括）

①組織・運営に関すること

- ・各館の管理運営体制が別々で、連携や連絡の仕組みがないため、効率的な運営に繋がっていない。
- ・各館に学芸員が常駐しておらず、調査研究や資料の日常的な管理、展示更新等、地域に密着した活動が進んでいない。
- ・特別展や講演会の実施など、集客を促す取り組みが少なく、来館者数が減少する一方である。
- ・他館への回遊性を促す仕組みがなく、単独での誘客を行っているため、非効率的である。
- ・入館者数の減少が続いており、サービスの低下は抑えつつ、運営経費の削減を目指す必要がある。

②施設・管理に関すること

- ・天草コレジヨ館は築34年、天草ロザリオ館に関しては築33年と、建設から年数が経過しており、館の老朽化が進んでいる。雨漏り等、補修する箇所がある。
- ・ミュージアムショップやライブラリ機能等、来館者の満足度に関わる設備に欠けている。

③資料・展示に関すること

- ・ 展示解説や映像が長く更新されていないため、内容や設備も古く、世界遺産登録等にも言及がない。
- ・ 館の展示テーマや代表的な展示資料が分かりにくく、各館の展示資料にも重複がある。4館の展示テーマのすみ分けが明確でないことから、展示テーマを設定の上、展示資料を整理し、周遊動機に結び付ける必要がある。
- ・ 所蔵資料の中に寄託資料が多く、リスト化も不十分である。また資料の整理と保存状況等の定期的な確認が適切ではない。
- ・ 解説が専門的でわかりづらい。

④情報発信に関すること

- ・ 4館の情報発信手段が統一的ではなく、来館者の利便性に欠ける。
- ・ 多言語による情報発信がなく、外国人向けの情報が不足している。
- ・ 崎津教会が世界遺産に登録されたと考えている観光客は多いが、各館においては崎津集落の価値に関する情報発信が進んでおらず、崎津集落の歴史や世界遺産としての価値が十分伝わっていない。
- ・ 市民向けの周知が十分ではなく、市民利用へ繋がっていない。
- ・ 収蔵資料等の整理や調査研究が進んでいないことから、研究者への情報提供に繋がっていない。

天草の崎津集落が世界文化遺産の構成資産として登録されたことやイルカウォッチングへの人気から、天草観光への注目が高まる要素はありながらも、キリシタン資料館自体は崎津集落への観光客をそのまま取り込むこともできず、入館者は減少し続けている。キリシタン資料館はそもそも観光振興に焦点を置いてきた施設であり、地域との連携を重視してこなかったため、市民の利用や研究者との連携に繋がっていない。

更に、4館はキリシタン文化をテーマにした展示施設でありながら、天草市の合併以前の常設展の内容をほとんど変更することなく、企画展等の開催実績も少ない。また、展示資料についても重複がある一方、代表的な展示資料や個別の展示テーマの設定において、すみ分けが明確ではなく、各館を周遊し、リピートする動機付けに結び付いていない。

各館における組織体制については、前述のとおり、正職員が不在となり、学芸員についても天草キリシタン館に非常勤学芸員が1名配置されているのみである。このように、専門職を含めた職員が不足しているため、計画的な展示更新や調査研究活動が停滞している原因となっている。

その他、映像コンテンツ等のソフトおよびハードの老朽化が進んでいるが、更新されてはいない。

このように、人を引き付ける資料館運営に繋がっておらず、来館者が減少し

ている状況である。

3 キリシタン資料館の基本方針

天草におけるキリシタンの歴史・資料を継承していくために、4館は価値を発信するとともに受信者がその価値を理解し、興味と共感が生まれ、保全意識の行動につなげることが重要である。前述の現状や課題、提言等を踏まえ、資料館の基本的な目指す姿（将来像）を次のとおりとした。

**地域に根ざし 世界に繋がる
（天草キリシタンの歴史と文化を伝える）**

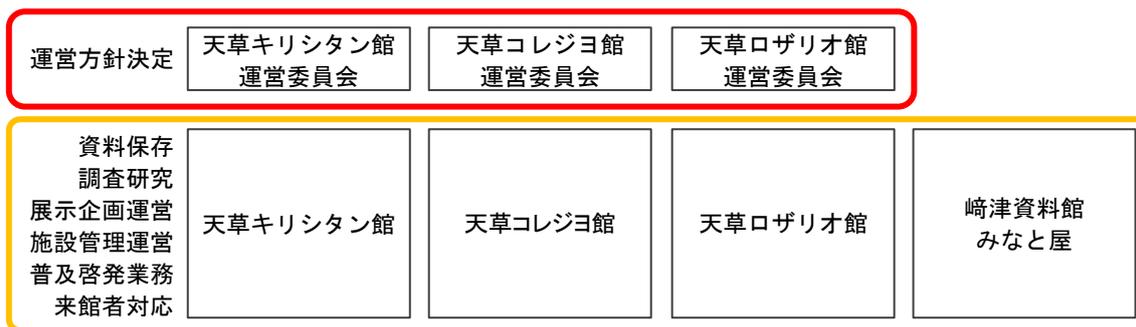
天草のキリシタンの歴史を深く知るための資料館として、資料の「保存・研究・伝達・展示」を機能させ、地域住民や県外・世界中から訪れる人に「教育・研究・楽しみの場」を提供し、その価値の理解と共感、保全活動へと繋げる。

上記の目指す姿に基づいて、以下に今後の取り組むべき基本方針について示す。

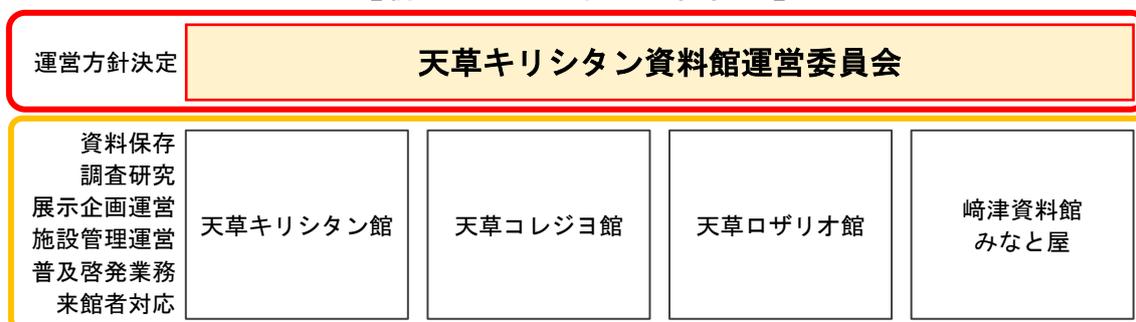
（1）組織・運営に関すること

【効率的な管理運営体制の構築】

天草キリシタン館、天草コレジヨ館、天草ロザリオ館及び崎津資料館みなと屋が共通認識のもと、より効果的・効率的に事業展開を進めるために、一元的な管理運営体制の構築を行う。



【新たな一元的管理運営体制】



※運営委員会を一本化することにより、一貫した方針のもと、館の展示テーマや展示物のすみ分けが明確化され、それぞれの館において特色ある展示・公開が可能となる。更に人や情報の一元管理により低コストでの運営が見込める。なお、館の業務については指定管理制度の導入も検討する。

図 6 新たな管理運営体制図

(2) 施設・管理に関すること

【施設の適正な管理と整備】

資料館は、歴史的価値のある貴重な資料を多く保有し、調査・研究を行う施設である。また、その成果を公表し、重要な文化財的資料を借用し、企画展や特別展を開催することにより多くの方が訪れる施設である。

貴重な資料を安全に保管できる資料館、貸し出すことへの信頼性を得る資料館、安心して観覧できる資料館とするためにも、施設の適切な管理と整備が必要である。

(3) 資料・展示に関すること

【展示テーマの明確化と魅力ある展示の実施】

観光客および市民に対し、資料館や世界遺産への再来訪と来館者の回遊性を促すため、天草市内に点在するキリシタン資料館に、それぞれの展示テーマとそれを表現する代表的な展示品を設定し、よりわかりやすく、より特色のある常設展の更新や企画展を開催する。また、展示の更新にあたっては、パネル・映像等の他、よりキリシタン史の理解を促進するよう、VR・AR等のデジタル技術を用いたコンテンツを導入し、体験学習等に活用する。更に、展示図録等の作成を行うことにより、展示資料に関する、より深く、詳細な情報の提供にも繋げる。

【資料の適正な管理と収蔵庫機能の更新、台帳の整備】

貴重な資料を適切に保存するためには、安定した保存環境と、それを維持するための専門知識を有する学芸スタッフの配置が必要となる。また、材質・形状・保存状態に応じた資料の取扱い方法や、温湿度の管理に関する研修等の実施、ノウハウの蓄積、通常の業務における訓練といったスタッフ教育が必要となる。更に収蔵設備についても、他館から資料を借用できる設備がないことから、状況に応じて整備する。

なお、資料管理の効率化のため、4館共通フォーマットの台帳の整備を行い、デジタルミュージアム等に活用する。

【調査・研究の充実と体制の構築】

計画的に資料の調査を実施し、地域に根ざした研究を進める。また、大学や研究者への情報提供や共同研究を行うことで更なる研究の発展を図る。そうした研究結果を各館での特別展や常設展に活かし、魅力的な館の運営に繋げる。このような活動を効率的に実施するにあたり、学芸員の増員、各館への配置に努め、大学や研究機関等と連携し、必要な研究体制を構築する。

(4) 情報発信に関すること

【情報発信の充実】

天草市の資料館と、その収蔵する資料の価値を効果的に伝えるために、キリシタン資料館の各館が連携して発信を行う。基本的には天草キリシタン館が総合的な情報の収集と発信を行うこととし、天草コレジオ館・天草ロザリオ館・崎津資料館みなと屋は、より詳細な自館の情報を発信する。

(5) 保全意識の醸成に関すること

【価値の理解・保全意識の醸成】

世界遺産を含め、貴重な文化財を保存し、次世代へ継承していくためには、天草市民や来訪者等がその価値を理解し、共感し、更には保全活動へ繋げる必要がある。そのため、キリシタン資料館において、市民が気軽に訪れる教育・研究の場を提供し、今後設立する予定の友の会や支援団体と協働しながら、価値の理解を促すとともに、保全意識を育む活動を推進する。

4 キリシタン資料館の将来像

キリシタン資料館は、前述の基本方針のもと、資料の「保存・研究・伝達・展示」を機能させ、地域はもとより県外や世界中から訪れる人たちに「教育・研究・楽しみの場」を提供し、その価値を理解・共感・保全活動へ繋げていくことが重要である。

そこで、キリシタン資料館の目指すべき姿である「地域に根ざし 世界に繋がる（天草キリシタンの歴史と文化を伝える）」に向かって、天草のキリシタン資料館としての価値を更に磨き上げていく。

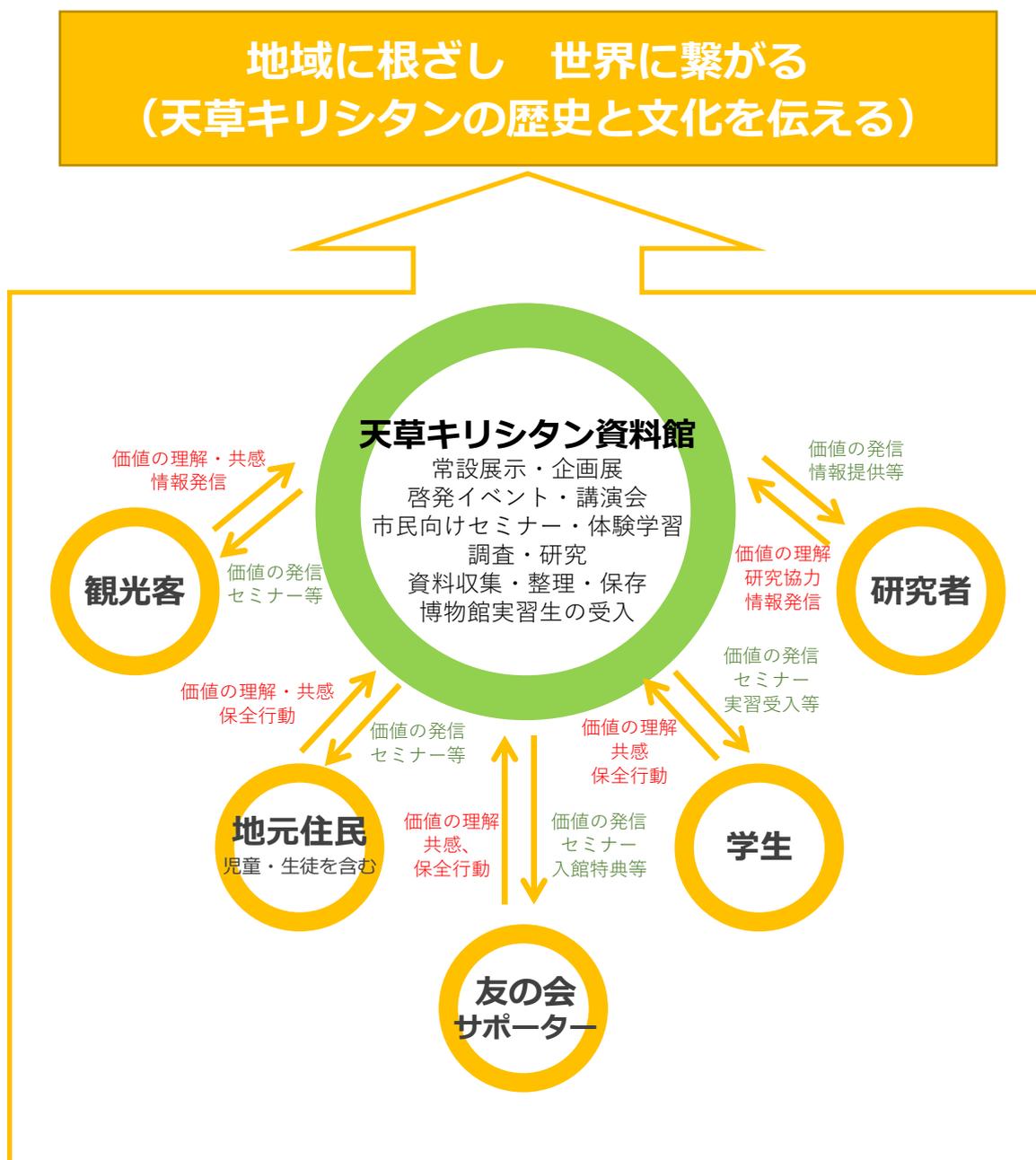


図 7 キリシタン資料館の目指すべき姿のイメージ図

第3章 具体的な施策

第2章第3節の基本方針に基づいて、具体的な施策を次のとおりとした。

1 組織・運営に関すること

(1) 施設の一括管理のための組織改革

世界文化遺産登録を契機に、天草のキリシタンの歴史と文化を継承し、その史実を伝えていく施設としてキリシタン資料館を再生することが重要であり、そのためには、4館を一体として管理運営していくことが合理的である。この考えに基づき、平成31年度から文化課に新たにキリシタン資料館管理係を設置し、令和3年度には組織改編により世界遺産・キリシタン資料館係となった。当該係がキリシタン資料館の事務を統括し、より一体感を高めた資料館の運営を推進する。

(2) 条例の一本化（運営委員会の一元化）

4館の連携した運営効果をより確かなものにしていくために、統一の方針のもと、各施設を管理運営する必要がある。そこで、4館個別の条例を一本化し、併せて、これまでの各運営委員会の垣根を取り除き、管理運営体制を統合する。

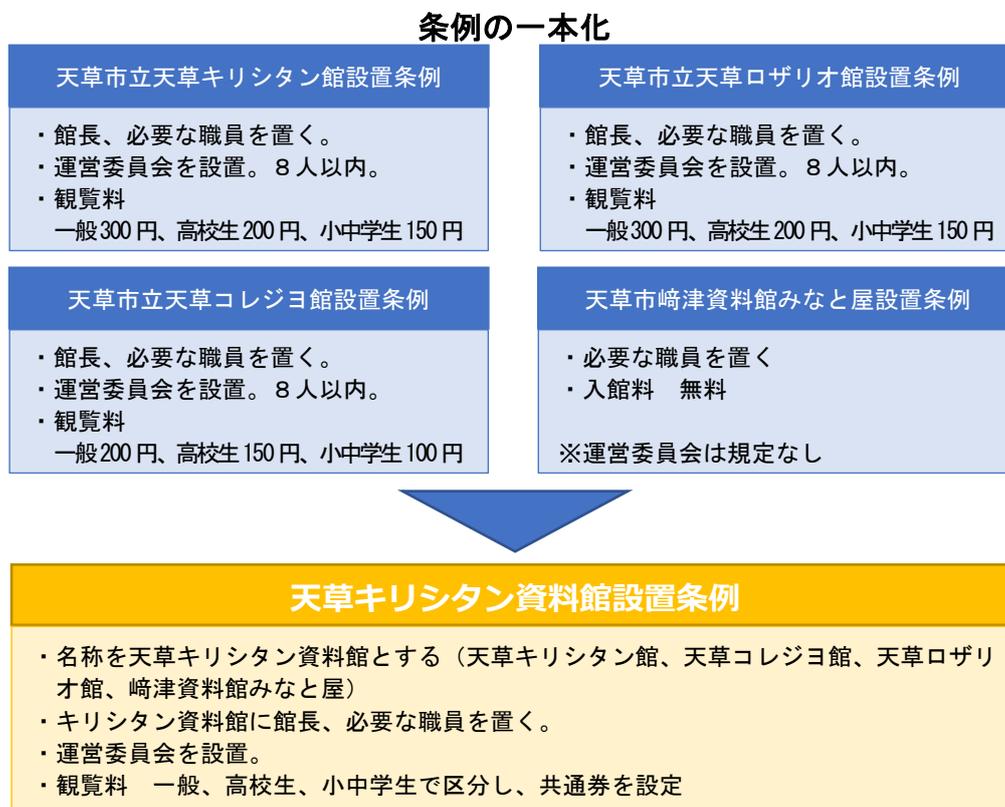


図8 条例の一本化

これにより、全体を俯瞰した視点から事業運営計画を策定することができ、情報や展示内容等を一元管理することで、すべての施設の活性化と運営費の削減を同時に実現することが可能となる。

また、天草玩具資料館は、キリシタン資料館の趣旨やテーマとは異なることから、天草ロザリオ館に統一するなど、そのあり方を再考する必要がある。

(3) 学芸員の配置と調査・研究体制の構築

資料館の効率的な管理のためには、前述のとおり、一元的な運営が必要となるが、魅力ある展示の企画や、資料の保存・調査・研究を継続して実施するにあたっては、各館における学芸員の役割が不可欠となる。地域に根ざした研究活動をより一層加速させるために、各館への学芸員の配置を進める。更に、博物館活動の充実を目的として調査・研究体制を構築し、大学や研究機関、他の博物館施設等とも連携した活動を推進する。

(4) 窓口業務の委託、指定管理者制度の導入の検討

① 窓口業務委託、指定管理者制度導入の必要性

入館者の減少が続くキリシタン資料館において、今後、効率的かつ効果的な施設運営を行うために、民間事業者のノウハウをいかに活用するか、検討が求められる。

その有効な手段として窓口業務の委託もしくは指定管理者制度の導入を検討することとし、集客力の向上、経費縮小、利用者の満足度向上を目指す。

一方で、資料管理、特別展開催などの業務は専門的なノウハウとその蓄積が必要であり、館の実情にも鑑み、指定管理の対象から除外することに留意する。

② 業務委託施設の視察結果

民間活力の導入にあたっては、指定管理者制度の他にも一部の業務を委託する方法についても視野に入れる必要がある。八代市立博物館「未来の森ミュージアム」と熊本市立熊本博物館において、窓口業務委託について視察したところ、概要は次のとおりであった。(資料編に詳細を記載)

八代市立博物館では、受付・案内業務として、書籍の販売や現金の取り扱い、日誌の作成、観覧統計など常時2人体制で行っている。

熊本市立熊本博物館では、開館当初、受付業務を直営で行っていたが、職員不足により業務が停滞し、業務委託を検討した。市内に観光案内拠点が無かったことから、観光情報発信の拠点としてミュージアムショップ運営と併せ、業務委託を行った。

業務委託の効果としては次のとおりである。

- ・質の良いサービスの提供ができる。
- ・行政による受付や観光案内等の業務が除かれ、展示や館の運営等の業務に集中できる。
- ・観光情報等の提供がスムーズにできる。

③ キリシタン資料館に適した手法の検討

指定管理者制度には、指定管理者（企業）にすべての業務を委託する方法と、指定管理者と行政が業務範囲を定めた上で連携して管理する方法がある。

資料館は、本来、資料の調査や研究、公開等を行い、歴史を後世に伝えるという役割がある。本市の場合、資料収集や収蔵管理、調査研究といった資料館としての学芸業務は、学芸部門の知見蓄積の観点から市が行うことが適している。また、その成果を市民・来訪者等へ公開することで資料館の役割達成に繋げるため、誘客のノウハウがある民間事業者と連携することが重要である。

指定管理制度を導入した場合、直営と比較すると経費が高昇するというデメリットはあるが、受付業務や誘客のための戦略業務、職員の管理業務等が排除され、資料館としての学芸業務に専念するメリットが生まれる。更に、職員の異動等に関わらず、来館者へのサービス提供も継続するメリットもある。

上記を踏まえつつ、指定管理者制度の導入もしくは業務委託の実施について検討を行う。

2 施設・管理に関すること

資料館は、貴重な資料を保有し、また、多くの人々が教育・研究・楽しみ場として訪れる場所である。したがって、資料の適切な保管・展示と来訪者の安全面には特に注意を払う必要がある。

(1) 収蔵資料の適正な管理と魅力ある展示のための展示室等の見直し・改修

資料館で保有する資料や、企画展用として借用した貴重な資料を適切に保管・展示し、また後述する展示テーマ等に沿った展示を実施するため、展示室の改修や展示ケースの設置等、展示・収蔵スペースの環境改善にかかる整備を行う。

(2) 来館者の安全と満足度に配慮した施設の改修

来館者が安心して資料館を利用することができるよう、施設の日常的な点検を行い、改修が必要な箇所については随時対応する。大規模な改修が必要な場合は、「天草市公共施設等総合管理計画」や「天草市公共施設再配置・個別施設計画」に則り、必要に応じて専門業者による調査を行い、運営委員会や関係部署と十分に協議を行った上で、計画的に対応する。

また、資料や展示への理解を補助し、興味関心を向上させるライブラリ機能や、ミュージアムショップの設置等、来館者の満足度をより高めるための取り組みを推進する。

3 資料・展示に関すること

(1) 各資料館の展示テーマと代表的な展示物の設定

各資料館では、これまでも価値の高い展示物を多数公開してきたが、解説も用語が専門的で難しいものが多く、一般の来館者にはストーリーやテーマが理解しづらい状況にあったため、誰もが展示意図や視点を理解できる展示内容となるよう配慮する。その上で各館の展示構成及び展示物を改めて検証し、それぞれの役割と展示テーマ、代表的な展示物や見どころを次のとおりとする。

① 天草キリシタン館

天草キリシタン館は、天草空港や本渡港、本渡バスセンターが所在する本渡地区にあり、天草を訪れる来訪客にとってアクセスしやすい「玄関口」といえる立地である。この立地特性を最大限にいかして、天草のキリシタン文化の全体像（流れや特徴など）を俯瞰し、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」との関連性を理解できる展示を行う。その上で、更なる詳細情報として天草キリシタン館以外に天草コレジヨ館と、天草ロザリオ館、崎津資料館みなと屋があり、それぞれにテーマに即した展示があることを伝え、周遊を促すことが重要である。

そこで、天草キリシタン館の展示テーマを「祈り ～時空を超えて～」とし、布教期から禁教・弾圧期、潜伏期、キリスト教解禁までの全体像を俯瞰できるよう展示整備を行い、他館への周遊を促す仕組みを構築する。

② 天草コレジヨ館

天草コレジヨ館の特筆すべき価値として、宣教師を養成する大神学校（コレジヨ）が天草に設置されたことの意義と、天正遣欧少年使節団の果たした役割の紹介が挙げられる。そのため、西洋（南蛮）と日本の文化交流のきっかけとも言うべき、彼らがヨーロッパから持ち帰ったグーテンベルク印刷機と数々の西洋古楽器類（いずれもレプリカ）を展示する。また天草のキリシタンの歴史は、ルイス・デ・アルメイダ宣教師の布教から始まることから、西洋医術を日本に伝え、宣教師としてキリスト教布教に大きな功績を残し、天草の地で帰天したルイス・デ・アルメイダについて詳しく紹介する必要がある。

そこで「天草コレジヨ館」の展示テーマを「交流 ～世界に拡がる文化の受容～」とし、上記の情報を厚く充実させるとともに、ルイス・デ・アルメイダの功績や代表的な展示物である「グーテンベルク印刷機」と「西洋古楽器類」の展示によって、その魅力や価値を伝える。

③天草ロザリオ館

天草ロザリオ館が所在する大江地区は、世界文化遺産に登録された崎津集落と同じく、禁教期にも信仰を続けた潜伏キリシタンの象徴的な集落である。ロザリオ館には、潜伏キリシタンの信心具やキリシタン発覚事件「天草崩れ」を記録した文書など、多数展示されている。中でも大江地区に現存する潜伏キリシタンの祈りの部屋である「隠れ部屋」の復元と、県指定文化財となっている「経消しの壺」は、ロザリオ館の象徴的な展示資料といえる。

そこで「天草ロザリオ館」の展示テーマを「**共生 ～信仰としなやかな心～**」とし、潜伏キリシタンの暮らしや信心具などの情報を充実させるとともに、象徴的な展示である「隠れ部屋」に関するストーリーを際立たせるよう展示を整理することで、「しなやかな信仰」によって、信仰を続けられたことを理解できるようにする。

④崎津資料館みなと屋

崎津集落は、禁教期における潜伏キリシタンの信仰形態や、アワビの貝殻内側の模様を聖母マリアに見立てて崇敬し、白蝶貝を用いたメダイを大切に継承するなど、漁村特有の信仰が育まれるとともに、キリスト教と仏教・神道が共存する集落として文化的価値を有している。この歴史と文化を継承していくためにも、その価値を広め、知識としての継承と保全意識の向上に繋げていく役割がある。

そこで「崎津資料館みなと屋」の展示テーマを「**世界文化遺産 ～住む人に誇りを、訪れる人に感動を～**」とし、基本的には現在の展示を維持し、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の顕著な普遍的価値や概要をはじめ、密集した漁村集落の形態を保存し、潜伏キリシタンが他宗教と共存しつつ信仰を続けてきた痕跡を有する崎津と、集落内にキリスト教関係の史跡を含む今富が、互いに補完しあうことで生活を営んできたことも伝えていく。

世界遺産・キリシタン資料館係

- ・キリシタン資料館の総括
- ・4館の施設の管理・運営及び運営委員会の開催

天草キリシタン館

- ・市の玄関口となる資料館
- ・キリシタン史の概要、キリシタン資料館全体の情報発信
- ・島原・天草一揆の調査・情報発信

天草コレジヨ館

- ・コレジヨの設置と南蛮文化との交流を伝える
- ・崎津集落への誘導
- ・平和教育

天草ロザリオ館

- ・禁教期、振興を継続した人々の営みを体感
- ・潜伏キリシタン等の調査・発信
- ・崎津集落と連携した情報発信

崎津資料館みなと屋

- ・崎津集落の歴史及び文化的な価値を紹介
- ・崎津集落の情報発信

図 9 各館の役割

各館のテーマ・展示内容

天草キリシタン館 「祈り」～時空を超えて～ <ul style="list-style-type: none">・天草のキリシタン史の概要・島原・天草一揆と天草四郎・国指定文化財「綸子地著色聖体秘蹟図指物」	天草コレジヨ館 「交流」～世界に広がる文化の受容～ <ul style="list-style-type: none">・ルイス・デ・アルメイダの布教・コレジヨの設置と文化交流、天正遣欧少年使節団・活版印刷機や古楽器の実演、体験
天草ロザリオ館 「共生」～信仰としなやかな心～ <ul style="list-style-type: none">・禁教政策と信仰の継承・潜伏キリシタンの営み・再現「隠れ部屋」、「経消しの壺」	崎津資料館みなと屋 <ul style="list-style-type: none">・世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の顕著な普遍的価値、概要・崎津集落の歴史・特有の文化・価値

図 10 各館の展示テーマ

(2) 常設展の更新及び企画展の開催

前項の展示テーマを踏まえつつ、常設展の展示更新を行う。更新にあたっては、専門用語を多用した解説を避け、誰にでもわかりやすい展示を目指し、多言語化に努めることとする。また、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の包括的保存管理計画において、4館はガイドンス施設として位置づけられているため、常設展の更新の際に、各館においても構成資産に関する紹介を盛り込むこととする。

更に、新たな資料の発見、発掘成果などを通じて、最新の情報を国内外に広く発信するために企画展示やトピック展等を開催し、入館者数やリピーターの増加を見込む。

(3) 台帳整備とネットワーク化

現在は各資料館において独自フォーマットによる台帳を用いて管理しているが、資料管理を効率化させるため、同一のフォーマットによる台帳を整備する。また、各資料館の情報をどこからでも確認できるようにするため、ネットワーク化を推進し、デジタル博物館での公開に活用する。

(4) 資料の調査、研究

資料館は、そこを訪れた人に、展示資料等から学ぶ手段を提供するために、

収蔵資料を保存・記録すると共に、それらを研究・展示する役目がある。

そこで、大学や他の博物館施設、識見者等と連携のもと、資料の保存活動及び資料の調査・研究活動を推進する。調査や研究の成果は、年報の発刊、企画展・講演会等を開催し広く発信していく。

4 情報発信に関すること

天草のキリシタンの歴史と文化、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の価値を広く紹介するためには、各館が連携して情報発信することが望まれる。

崎津集落が世界文化遺産に登録されたことにより、崎津集落や崎津資料館みなと屋に多くの人が来訪したが、他の資料館への来館には直接的には繋がらなかった。そのため、来訪者に更に天草の歴史について深い関心を抱かせ、周遊を促すことが重要となる。

そのためには、天草キリシタン館が全体情報を管理し、媒体やターゲットの属性等に適した表現によって、効率的かつ効果的な情報発信を進める。また、各施設の様々な情報について、より分かりやすく、より魅力的に伝えるために各館独自の情報発信に努める（図 11）。

更に、天草キリシタン館では、天草コレジヨ館、天草ロザリオ館、崎津資料館みなと屋の情報だけではなく、世界遺産やイルカウォッチングをはじめとする、天草観光情報や長崎県内に位置する世界遺産の他の構成資産を含めた情報、関連する史跡の紹介等、総合的に発地側に伝え、資料館の周遊と天草・長崎地域の観光を組み合わせた情報提供を行うことで、観光客の回遊性を高め、満足度を高める取り組みを行う（図 12）。

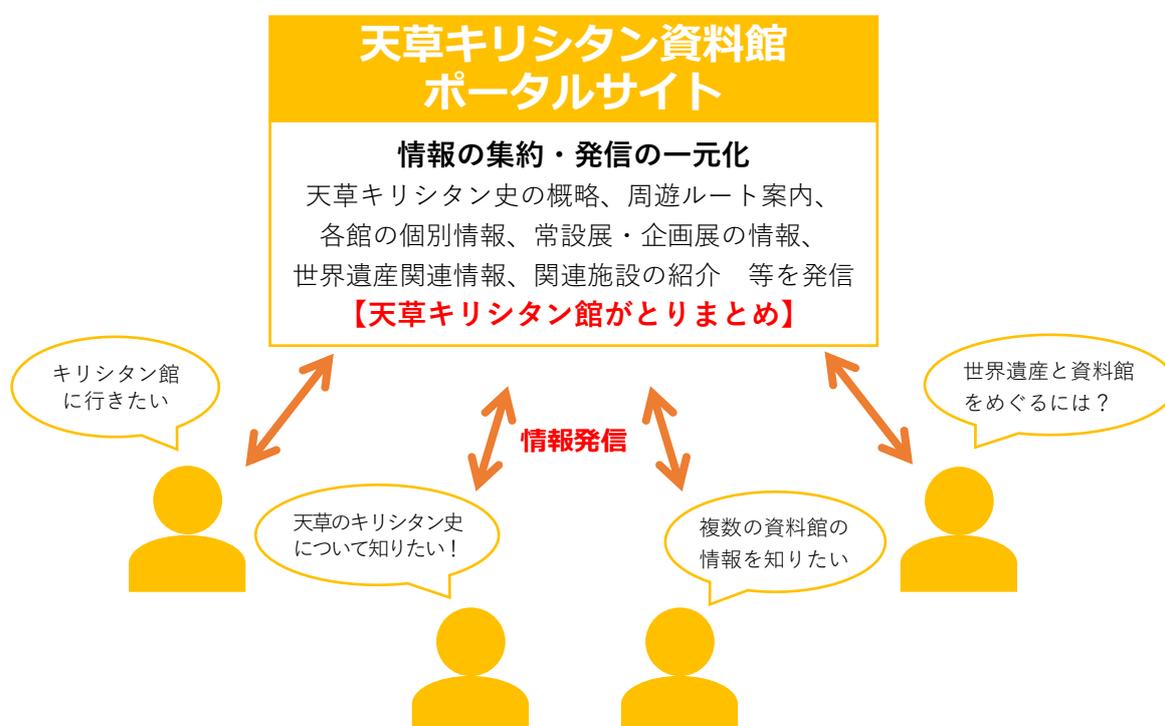


図 11 キリシタン資料館の情報発信イメージ

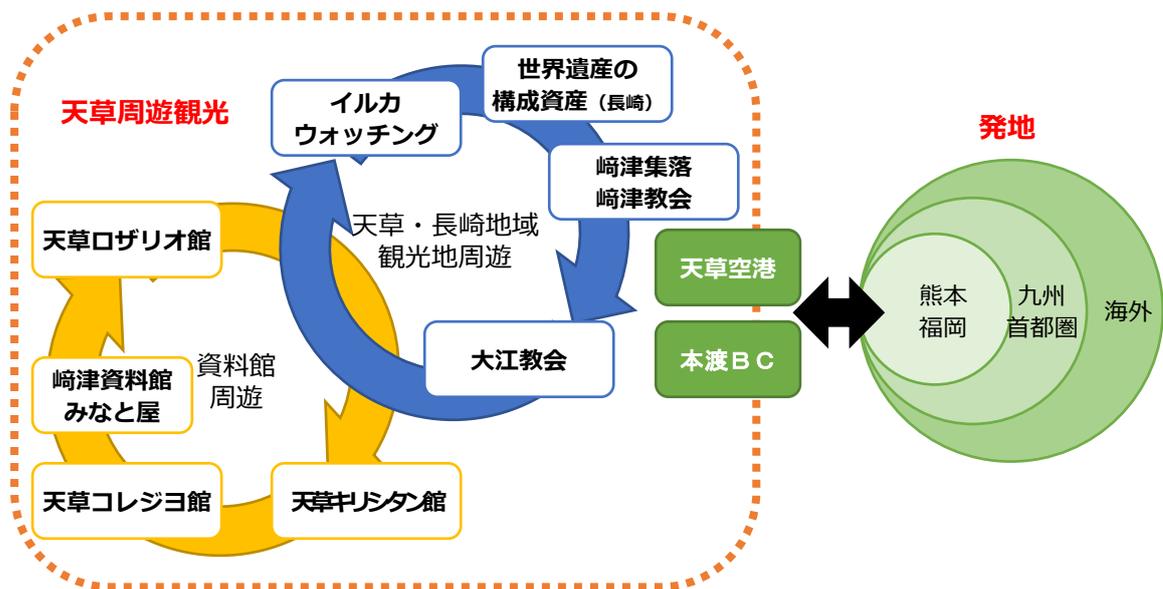


図 12 天草周遊イメージ

(1) WEBによる発信

国内はもとより国外も含めてターゲットとして「天草のキリシタンの歴史と文化」の情報を効率的かつ効果的に発信することで、その価値の理解と共感を促す。キリシタン資料館全体の情報を網羅した総合ポータルサイトを構築し、必要に応じてSNSを活用するなど、来館意欲に繋がるような取組を行う。なお、総合ポータルサイト等においては多言語化に留意する。

(2) 各種媒体による発信

より広範に「天草のキリシタンの歴史と文化」の認知度を引き上げることを目的に、広範な人の目に容易にふれる印刷物や映像、サインなどの各種媒体を用いて情報発信を行う。

特に総合パンフレットや年報、図録等を発行し、資料館の基本情報の他、所蔵する資料や世界遺産関連情報等について、より詳しく、多彩な情報を提供するよう努める。また、各館及び関係する史跡等において体系的なサインシステムを確立し、周遊の円滑化に繋がる整備を行う。

(3) メディアを活用した発信

地元のラジオやケーブルテレビを活用し、多くの市民に資料館の情報を提供することで地域住民の関心を高め、知識の向上にも繋げる。

(4) 講演会等の開催による発信

定期的な講演会やギャラリートーク等のイベントを開催することで「天草のキリシタンの歴史と文化」の価値を直接的に訴えかけ、興味・関心を喚起し、より深い理解を促す。

5 保全意識の醸成

天草のキリシタンの歴史と文化を継承していくためには、多くの人にその価値を理解いただき、知識としての歴史・文化の継承と、保全意識の向上が必要である。そのために、地域住民や児童、生徒などに学習機会を提供する。

(1) 市民向けセミナーへの対応

文化課において、市民を対象とした歴史・文化関連の出前講座やセミナー等を実施する。また、各資料館において展示テーマ等に関連した内容のセミナーを実施する。

(2) 児童・生徒への学習機会の提供

市内の小中学校に対し、天草のキリシタンの歴史と文化を学ぶための学習機会を提供し、子供たちの興味・関心を喚起し、未来に継承する次世代を育む。

(3) 大学等との連携

資料の調査、研究、保護活動への協力を依頼するとともに、大学が実施する研究や博物館実習生の受入れについて積極的に協力をを行う。

第4章 計画の推進に関する事項

1 計画の推進体制

本計画は、文化課において総合的に推進することとし、必要に応じて関係各課と連携する。各館においては、その役割に応じ、世界遺産・キリシタン資料館係と協力し、主体的に推進する。また、推進にあたって専門知識を要する課題が発生した場合は、有識者を含めた委員会を組織し、議論する。

効果検証については、毎年度末に文化課において数値をとりまとめ、翌年度の運営委員会において検証する。

2 計画の変更について

本計画について変更する必要がある際は、随時変更することとする。変更の際は運営委員会に諮り、意見を聴取することとする。なお、変更後はその内容を速やかに公表する。

3 成果指標

本計画においては、次の数値目標値を掲げ、施策を推進する。

(1) 来館者数

	現在値 (令和2年)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
天草キリシタン館	15,361	15,000	18,000	27,000	30,000	33,000
天草コレジヨ館	3,959	3,900	4,700	7,000	12,000	13,500
天草ロザリオ館	7,154	7,000	8,400	12,000	20,000	21,500
崎津資料館みなと屋	18,535	18,000	21,000	31,000	50,000	53,000

(2) 市民向け講座等開催数

	現在値 (令和2年)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
天草キリシタン資料館	9	10	10	10	10	10

(3) 企画展等開催数

	現在値 (令和2年)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
天草キリシタン館	3	3	2	2	2	2
天草コレジヨ館	0	1	2	2	2	2
天草ロザリオ館	1	1	2	2	2	2
崎津資料館みなと屋	0	1	1	1	1	1

4 実施スケジュール

	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
(1) 組織運営に関すること					
(1)施設の一括管理のための組織改革		組織改編			
(2)条例の一本化（運営委員会の一元化）		改正	周知	施行	
(3)学芸員の配置と調査・研究体制の構築			学芸員の配置、調査研究体制の構築		
(4)窓口業務の委託、指定管理者制度の導入の検討			調査・協議・導入		
(2) 施設・管理に関すること					
(1)収蔵資料の適正な管理と魅力ある展示のための展示室の見直し・改修			展示室見直し	改修	
(2)来館者の安全と満足度に配慮した施設の改修				施設改修	
(3) 資料・展示に関すること					
(1)各資料館の展示テーマと代表的な展示物の設定		テーマ・展示物の設定			
(2)常設展の更新及び企画展の開催			展示検討・企画・更新		
(3)台帳整備とネットワーク化			台帳整備		
(4)資料の調査、研究			資料調査・研究		
(4) 情報発信に関すること					
(1)WE Bによる発信		HP改修		HP運営	
(2)各種媒体による発信			総合パンフレット・図録等発刊、サイン整備		
(3)メディアを活用した発信			ラジオ、CATVを活用した情報発信		
(4)講演会等の開催による発信			講演会・ギャラリートーク等の開催		
(5) 保全意識の醸成					
(1)市民向けセミナーへの対応			セミナー等の開催		
(2)児童・生徒への学習機会の提供			児童・生徒向け出前講座の開催		
(3)大学等との連携			資料調査・研究、博物館実習等の受入（通年）		